

道徳学習指導略案

2年1組 23名 指導者 京田 憲子

本授業では、以下の検証を行うものである。

- 問い直す活動において、板書に「見える図」を用いることは、子どもの思考を整理し、広げる手立てとして有効であったか。
- 振り返る活動において、「見える図」を用いて今までの体験やそのときの心情を想起することは、自己の生き方についての考えをより深める手立てとして有効であったか。

1 主題名 友達と仲良く（資料名「およげない りすさん」〈読み物—「わたしたちの道徳」〉）

2 ねらい

友達と仲良くし、互いに助け合っていこうとする態度を育てる。

（2－③ 友情・信頼、助け合い）

3 展開に当たって

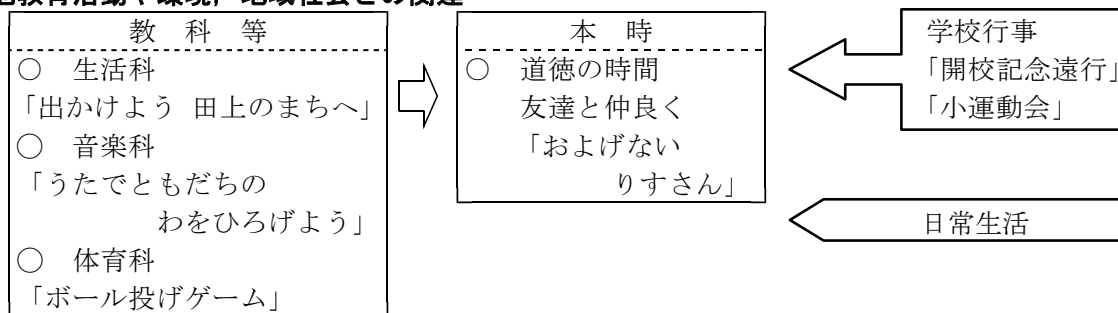
見つめる活動では、友達と仲良くできた体験やそのときの心情を想起させた上で、もっとどのようになりたいか問い掛けることで、「もっとともだちとなかよくなるには、どのような気持ちがあればよいだろう。」という共通の問題意識を練り上げることができるようにする。

問い直す活動では、まず、ICT機器を活用して資料を提示することで、資料の内容をより深く理解することができるようにする。次に、りすを仲間はずれにする場面において、自分の体験を想起させることで、かめたちの気持ちに共感することができるようにする。その後、自分達だけで遊んでいるかめたちの表情を押さえることで、りすがいないと楽しくないことに気付くことができるようにする。中心発問においては、次の日にりすを遊びに誘う場面を取り上げる。その際、かめたちの気持ちを一人で考えた後、つぼみちゃんペアで対話活動を行うことで、道徳的価値に対する自分の感じ方や考え方を明確にしたり、多様な考え方に気付いたりすることができるようにする。また、教師と子どもで役割演技をすることで、かめたちの気持ちにより共感することができるようにする。さらに、板書に「見える図」を用いて、自分・他者・集団社会の三つの視点で分類することで、子どもの思考を整理し、広げることができるようにする。

振り返る活動では、事前に道徳的価値について考えた「見える図」に、本時の学習で分かったことやこれまでの体験やその気持ちを書き加えることで、授業後の深まりを実感することができるようにする。

あたためる活動では、「わたしたちの道徳」の言葉や友達と仲良くできた体験の映像を見せることで、友達と仲良く、助け合うことのよさを実感させ、道徳的実践意欲を高めることができるようにする。

4 他教育活動や環境、地域社会との関連



5 資料について

本資料は、友達と仲良く遊ぶことのよさや、友達のことを考えて助け合うことの大切さについて考えることのできる資料である。

かめ、あひる、白鳥が池の中の島へ行こうとした際に、一緒に連れて行ってほしいと言うりすに泳げないから駄目だと断り、仲間はずれにしてしまう。しかし、りすがいないまま遊んでも楽しくなかったかめたちは、次の日、りすに昨日のことを謝り、今度はりすをかめの背中に乗せて、みんな島に向かう話になっている。

仲間はずれは、低学年の子どもにおける友達とのトラブルとして起こりうることである。そのため、本資料を使ってこうした場面について考えることで、友達と仲良く、助け合おうとする心情を高めることができる。

6 本時の展開

□ 重点化するスキル [] 子どもの意識 ○ 指導の手立て ※ 評価

過程	時間	主な学習活動と指導の手立て	
見つめる	5	<p>1 友達と仲良くできた体験やそのときの心情を想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昼休み時間に楽しく遊んでいるよ。 ・ 声を掛けてもらおうと、嬉しいな。 <p>もっとともだちとなかよくなるには、どのような気持ちがあればよいだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友達と仲良くできた体験やそのときの心情を想起させた上で、もっとどのようになりたいか問い掛けることで、共通の問題意識を練り上げることができるようにする。 ○ めあてを全員で一読することで、全員が確認することができるようにする。 ○ ICT機器を活用して資料を提示することで、資料の内容をより深く理解することができるようにする。
問い直す	27	<p>2 資料「およげないりすさん」を見て、かめたちの気持ちを中心に話し合う。</p> <p>(1) りすに「一緒に連れて行ってね。」と言われたとき、どのようなことを考えたのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一緒に遊びたいけど、泳げないから連れて行けないな。 ・泳げないと一緒に遊べないよ。 ・かわいそうだけど、断ろう。 <p>(2) 島で遊んでいるとき、どのような気持ちだったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かわいそうなことをしたな。 ・りすさん、寂しいかな。 ・りすさんとも遊びたいな。 <p>(3) どのような気持ちから、次の日、りすを乗せて行ったのだろう。</p> <p style="text-align: center;">分類する</p> <ul style="list-style-type: none"> ア みんな一緒じゃないと、すっきりしないな。 イ りすさん、ごめんね。 ウ みんなで遊んだ方が、楽しいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分達だけで遊んでいるかめたちの表情を押さえることで、りすがいないと楽しくないことに気付くことができるようにする。 ○ 中心発問において、つぼみちゃんペアで対話活動を行うことで、道徳的価値に対する自分の感じ方や考え方を明確にしたり、多様な考え方に気付いたりすることができるようにする。また、教師と子どもで役割演技をすることで、かめたちの気持ちにより共感することができるようにする。 <p>※ 中心発問に対する考え方を机間指導において次の視点で評価する。</p> <p style="text-align: right;">(道徳ノート)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>ア 自分の気持ちを中心とした考え方</p> <p>イ 他人への思いを中心とした考え方</p> <p>ウ 集団・社会への思いを中心とした考え方</p> </div>
振り返る	10	<p>3 友達と仲良くできた体験やできなかった体験、そのときの心情を振り返る。</p> <p style="text-align: center;">関連付ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達を遊びに誘えたのは、友達のことを考えたからできたんだな。 ・ 恥ずかしくて、初めての友達に声を掛けることができなかったな。 ・ 学級のみんなで遊ぶと、楽しいな。 ・ 一人の友達を見つけたら、自分から声を掛けようかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中心発問において、板書に「見える図」を用いて、ア・イ・ウの視点で分類することで、子どもの思考を整理し、広げることができるようにする。 ○ 振り返る活動において、事前に道徳的価値について考えた「見える図」に書き加えることで、授業後の深まりを実感することができるようにする。
あたためる	3	<p>4 友達と仲良く過ごしている映像を見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これからも、たくさんの友達と仲良くしていきたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「わたしたちの道徳」の言葉や友達と仲良くできた体験の映像を見せることで、道徳的実践意欲を高めることができるようにする。